

環境経営レポート

令和6年度

(対象期間: 令和6年7月～令和7年6月)



作成年月日: 令和7年 7月 25日
株式会社 市川自動車

目次

1. 組織の概要	…	P 1
2. 環境経営方針	…	P 2
3. 実施体制	…	P 3
4. 環境経営目標	…	P 4
5. 環境経営計画	…	P 5
6. 環境経営目標の実績	…	P 6
7. 環境経営計画と評価及び次年度の取組内容	…	P 7
8. 環境関連法規等の遵守状況確認及び 評価結果並びに違反、訴訟等の有無	…	P 8
9. 代表者による全体評価と見直し・指示	…	P 9

1 組織の概要

1. 事業所名及び代表者名

株式会社 市川自動車

代表取締役 市川哲也

2. 所在地

名称	所在地	備考
コバック横砂店	静岡県静岡市清水区横砂1585	サイト認証
オートザム清水	静岡県静岡市清水区築地町10-10	サイト認証
コバック港店	静岡県静岡市清水区日の出町2-40	認証対象外
コバック 静岡インター店	静岡県静岡市駿河区中島428-1	認証対象外

3. 環境管理責任者、事務担当者の氏名及び連絡先

環境管理責任者 平岡博多
事務担当者 曾根邦光

TEL 054-368-4376
FAX 054-368-4378
E-mail k-sone@ichikawa-group.com

4. 事業活動

自動車整備及び販売、カーリース、保険(生保・損保)

5. 事業規模

項目	令和7年6月30日現在
売上高	全社 7億6千万円
従業員数	全社 58名 (内訳: 横砂 17名、港店 10名、オートザム 14名、インター店 17名)

6. 事業年度

7月1日～翌年6月30日

7. 認証・登録の対象範囲

活動: 全事業活動

対象組織: オートザム清水、コバック横砂店(サイト認証)

2 環境経営方針

株式会社 市川自動車 環境方針

[環境理念]

株式会社市川自動車は、自動車整備・販売の業務を通じて温暖で自然豊かな地域環境、さらには地球規模の環境を守るため、常に環境に配慮した事業活動に努め、環境と調和した経済発展に寄与する企業を目指します。

[基本方針]

当社は環境理念に基づき、以下の基本方針を定め、環境経営を継続的に改善します。

1. 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量の削減、化学物質等の適正管理に努めます。
 - 1) 電気、軽油、ガソリン等の使用量削減に努めます
 - 2) 3R活動の展開による廃棄物の削減に努めます
 - 3) 節水活動による水使用量の削減に努めます
 - 4) 化学物質を扱う際は適正管理を行うよう努めます。
2. 環境関連法規制等の遵守
環境関連法規制を遵守します
3. 環境に配慮した販売活動
 - 1) 事務用品や原材料等のグリーン購入に努めます
 - 2) 環境に配慮した製品の販売を推進します
4. 環境コミュニケーションの実施
 - 1) 社外に環境活動レポートを公開し、利害関係者のみならず社会とのより良いコミュニケーションを図って行きます
 - 2) 社内においては、全従業員に環境方針を周知し、全社員参画による取組を目指します

制定年月日 平成 28年 1月 1日(初版)
改定年月日 令和 2年 7月 27日

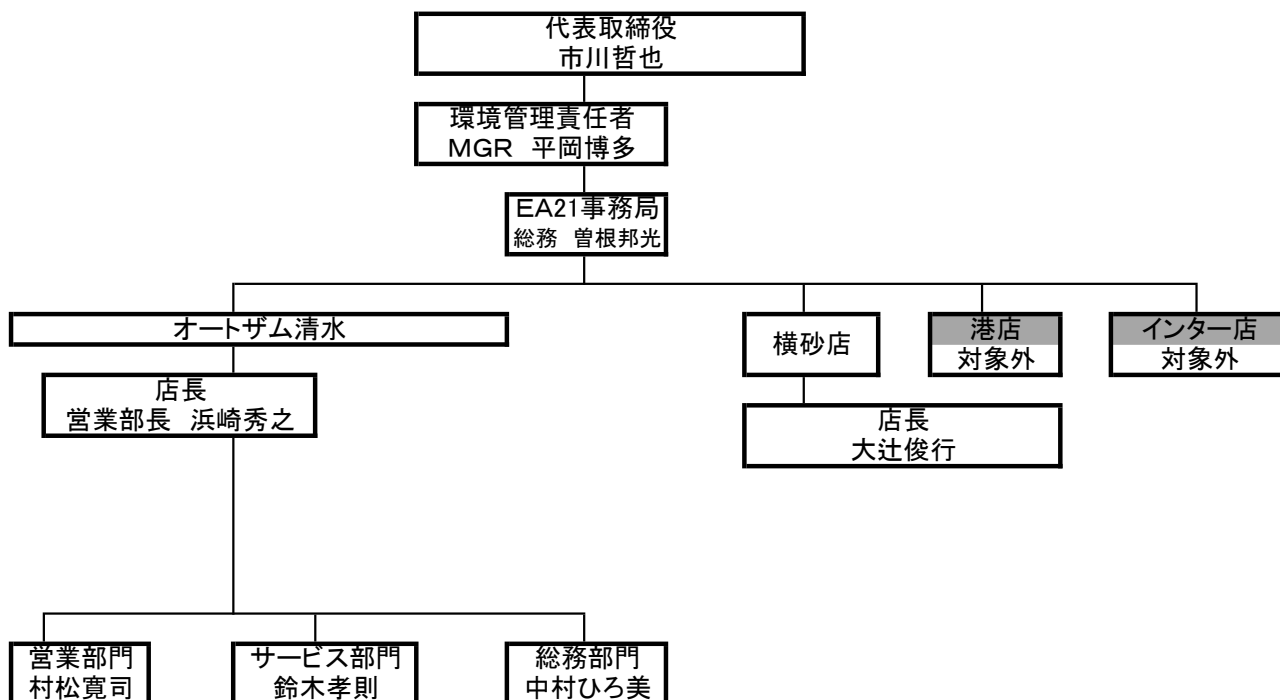
株式会社 市川自動車

代表取締役 市川哲也

3 実施体制

令和7年6月30日 現在

実施体制



<関係者の権限と役割>

代表取締役

- ①環境経営全般に関する責任と権限
- ②環境経営に必要な資源の準備
- ③環境経営システム全体の評価と見直し
- ④環境管理責任者の任命
- ⑤環境方針の策定

環境管理責任者

- ①環境経営システム全般の運用・管理
- ②環境経営目標及び環境経営計画の作成
- ③取組状況の社長への報告
- ④環境活動レポートの作成

EA21事務局

- ①環境負荷データ等の集計
- ②環境経営目標・環境経営計画の進行管理
- ③「環境負荷」及び「環境への取組」の自己チェックの実施
- ④環境管理責任者へ取組状況の報告
- ⑤法規制の遵守状況チェック
- ⑥文書・記録の管理

店長

- ①部門の環境経営計画の実施
- ②部門データの集計
- ③部門の問題点把握と是正対策の実施
- ④部門取組状況の事務局への報告
- ⑤部門の従業員教育

その他の従業員

- ①自分の役割を守りエコアクション21活動を推進する

4 環境経営目標

短期・中長期環境目標

環境目標は令和3年度(実績値)を基準とした基準年比とする。

項目	単位	3年度 R4/6期 (基準年)	6年度 R7/6期	7年度 R8/6期	8年度 R9/6期	9年度 R10/6期	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	77,381	-5% 73,512	-6% 72,738	-7% 71,964	-8% 71,191	
	電力	kWh	98,232	-5% 93,320	-6% 92,338	-7% 91,355	-8% 90,373
	ガソリン	L	7,380	-5% 7,011	-6% 6,937	-7% 6,863	-8% 6,789
	軽油	L	2,301	-7% 2,140	-9% 2,094	-11% 2,047	-13% 2,001
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	44.8	-9% 40.8	-11% 39.9	-13% 39.0	-15% 38.0
	一般廃棄物	kg	1440.0	-7% 1,339	-8% 1,325	-9% 1,310	-10% 1,296
水使用量	m ³	681	-6% 640	-7% 633	-8% 626	-9% 619	
化学物質使用量(油脂類)	—	—	適正な管理・使用				
環境に配慮した製品販売	台数	94	前年比 +6%	前年比 +7%	前年比 +8%	前年比 +9%	

(注)

「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、鈴与商事の4年度調整後排出係数

「0.595kg-CO₂/kWh」を使用した。この排出係数を令和9年度まで使用する。

5 次年度の環境経営計画

(取組期間: 令和7年7月～令和8年6月)

環境活動項目(令和6年度)		実施スケジュール	責任者	
二酸化炭素の削減	エコ・ドライブ	A.効率的な回送、訪問ルートを選定	通年実施	浜崎
		B.急発進・急加速の禁止	通年実施	
		C.車両の定期的なメンテナンスを実行する(タイヤ空気圧など)	通年実施	
		D.定期的な洗車と車両チェックを行い必要なメンテナンスを行う	通年実施	
	運転管理等	A.同方向は相乗りの励行	通年実施	村松
		B.エアコンの適正温度設定での使用を励行	通年実施	
		C.社有車、試乗車の利用後はエアコン、カーステなどを切る	通年実施	
		D.代車のガソリン残量を適正管理する	通年実施	
	空調等	A.室温を夏季26℃、冬季20℃に保つ	通年実施	浜崎
		B.クールビズ、ウォームビズの実施	通年実施	
		C.空調フィルターを夏前に清掃する	通年実施	
		D.断熱フィルム西側検討	通年実施	
		E.2Fエアコンを効率よく使用するため8月中に吹き出し口に羽根付けを行う。	8月実施	
		F.		
	工場・事務所	A.6S活動の実施	通年実施	大辻
		B.不良品の削減(不良率3%以下)	通年実施	
		C.工場内のLED化検討(補助金活用検討)	通年実施	
		D.タブレット現プレを実施し請求書入力を効率化する	通年実施	
	E.コンプレッサーのエア漏れチェック	通年実施		
	F.未使用設備の電源OFF(製造設備・OA機器・他)	通年実施		
	G.誤発注、発注漏れの削減	通年実施		
	H.			
	I.			
水使用量の削減	蛇口の老朽化による水漏れ修理の実施	上半期	村松	
	機器の管理に努め水漏れを防止する(ノズル交換)	通年実施		
	食器・タオルなどを洗う際水を出しっぱなしにしない	通年実施		
廃棄物の削減	印刷ミスの削減	通年実施	塩原	
	封筒などの再利用	通年実施		
	紙類の分別回収の徹底	通年実施	村松	
	ペーパーレスに出来るのは変更する。	通年実施		
リサイクルの推進	リサイクルパーツ・リビルト品の積極的な活用	通年実施	鈴木	
	廃プラスチックのリサイクル率向上	通年実施		
	紙類のリサイクル率向上	通年実施		
	未使用不要部品を廃棄から活用・販売に取り組む	通年実施		
化学物質(油類等)	使用化学物質のSDS入手	通年実施	平岡	
	購入量・使用量の把握	通年実施		
	購入・保管・使用・廃棄段階の適正管理	通年実施		
環境配慮型商品の販売	安全装備が搭載されている車両の販売推進 事故削減	通年実施	浜崎	
	"見守る保険"販売を強化し運転の自己チェックによりエコドライブに繋げ付保率60%超を目指す。	通年実施		
備考	1) 取組期間は令和7年7月～令和8年6月の12ヶ月間である。 2) 活動計画の見直しは、令和7年度(8年6月まで)が終了した時点で行う。(本期間中の見直しは行わない)			

6 環境経営目標の実績

6年度目標に対する運用期間(令和6年7月～7年6月)の実績・評価を以下に示す。

項目	単位	3年度 基準	6年度 目標	6年度 実績	実績削減率	評価	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	77,381	-5%	82,543	6.7%	×	
			73,512				
	電力	kWh	98,232	-5%	98,769	0.5%	△
				93,320			
	ガソリン	L	7,380	-5%	8,787	19.1%	×
				7,011			
軽油	L	2,301	-7%	1,314	-42.9%	○	
			2,140				
廃棄物排出量	産業廃棄物	t	44.8	-9%	48.0	7.1%	×
				40.8			
一般廃棄物	kg	1,440	-7%	1,440	0.0%	△	
			1,339				
水使用量	m ³	681	-6%	664	-2.5%	○	
化学物質使用量(油脂類)	—	—	—	—	—		
環境に配慮した製品販売(安全装置搭載車)	台数	94	前年比 +6%	68	-27.7%	×	

未達成項目

二酸化炭素排出量・・・今期は車検整備が大幅に増加し稼働が増えたため電力やガソリンの使用が増加した。

ガソリン代・・・車検台数が前期比+421台と大幅な増加により、貸出代車の稼働も増加した。

廃棄物排出量・・・車両保管や不要品が多く置かれていた横砂店第二工場を車両展示場に改装するにあたり、廃棄物排出が増加した。

環境配慮製品販売・・・今期は新車営業の社員の入れ替わりがあったことや新型車の投入が無いこともあり新車販売が苦戦した。今期は人員体制が整い、新型車の予定もあることから販売増加が見込まれる。

7 環境経営計画と評価及び次年度の取組内容

(取組期間: 令和6年7月～令和7年6月)

環境活動項目(令和6年度)		責任者	評価	コメント	今後(次年度)の取組内容	
二酸化炭素の削減	エコ・ドライブ	A.効率的な回送、訪問ルートを選定	○	エコドライブについては概ね出来ている。	注意喚起は継続しながら、引き続き徹底していく。	
		B.急発進・急加速の禁止	○			
		C.車両の定期的なメンテナンスを実行する(タイヤ空気圧など)	○			
		D.定期的な洗車と車両チェックを行い必要なメンテナンスを行う	○			
	運転管理等	A.同方向は相乗りの励行	○	社有車や代車を使用後にエアコンやカーステを切ることが徹底できていない。エアコンがLOになっていることもある。 社有車、試乗車の利用後はエアコン、カーステなどを切る 代車のガソリン残量を適正管理する	代車や社有車の利用後にエアコンやカーステをOFFにする事を徹底する。	
		B.エアコンの適正温度設定での使用を励行	○			
		C.社有車、試乗車の利用後はエアコン、カーステなどを切る	×			
		D.代車のガソリン残量を適正管理する	○			
	空調等	A.室温を夏季26℃、冬季20℃に保つ	浜崎	○	夏前のフィルター清掃が出来ていなかった。断熱フィルムは今期は販売が厳しかったので検討出来なかったため、来期実施を進める。吹き出し口への羽根付けは一定の効果があった。	2階のエアコンが1部の場所だけが冷えすぎてしまい効率が悪いので、吹き出し口に羽根付けを8月に行う。東側の断熱フィルムを貼り空調効率を上げる。
		B.クールビズ、ウォームビズの実施		○		
		C.空調フィルターを夏前に清掃する		×		
		D.断熱フィルム東側検討		×		
		E.エアコンを効率よく使用するため7月中に吹き出し口に羽根付けを行う。		○		
	工場・事務所	A.6S活動の実施	大辻	○	タブレットの利用した現プレが中途半端になっていて、効率化が図れていない。LED化は一部改修出来たが、順次進める。	LED化の進捗が遅いので補助金活用もしながら早期にLED化を進める。
		B.ゴミ箱を減らし、ゴミの発生を抑える		○		
		C.工場内のLED化検討		△		
		D.タブレット現プレを実施し請求書入力を効率化する		×		
		E.コンプレッサーのエア漏れチェック		○		
		F.未使用設備の電源OFF(製造設備・OA機器・他)		○		
		G.誤発注、発注漏れの削減		○		
H.不良品の削減(不良率3%以下)		○				
I.無料洗車の見直し検討		○				
水使用量の削減	機器の管理に努め水漏れを防止する(ノズル交換)	村松	○	節水は心掛け出来ている。	蛇口の老朽化により水漏れがあるので修理していく。	
	食器・タオルなどを洗う際水を出しっぱなしにしない		○			
廃棄物の削減	印刷ミスの削減	塩原	○		紙類の分別回収を更に徹底すれば、ゴミの削減や再利用に繋がるので、強化していく。	
	封筒などの再利用	村松	○			
リサイクルの推進	乾電池の分別徹底		村松	○		
	ペーパーレスに出来るのは変更する。	○				
リサイクルの推進	リサイクルパーツ・リビルト品の積極的な活用	鈴木	○	未使用部品の活用が進まなかった。	新車販売時に発生する未使用部品の活用や販売が出来ないか試しの販売を実施してみる。	
	廃プラスチックのリサイクル率向上		○			
	紙類のリサイクル率向上		△			
	未使用不要部品の廃棄から活用に取り組む		×			
化学物質(油類類)	使用化学物質のSDS入手	平岡	○			
	購入量・使用量の把握		○			
	購入・保管・使用・廃棄段階の適正管理		○			
環境配慮型車販売	安全装備が搭載されている車両の販売推進 事故削減	浜崎	○	今期の見守る保険付保率は53%と目標達成できなかった。 “見守る保険”販売を強化し運転の自己チェックによりエコドライブに繋げ付保率50%超を目指す。	見守る保険付保率60%超を目指し、エコドライブに繋げる。	
	“見守る保険”販売を強化し運転の自己チェックによりエコドライブに繋げ付保率50%超を目指す。		○			
備考	1) 取組期間の評価は令和6年7月～令和7年6月の12ヶ月間の実績評価である。 2) 評価判定は○・△・×の3段階で行う。(評価基準の○は出来た、△は一部出来た、×は出来ていなかった) 3) 活動計画の見直しは、令和6年度(7年6月まで)が終了した時点で行う。(本期間中の見直しは行わない)					

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規等の遵守状況

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

評価日 令和7年7月3日
評価者 環境管理責任者 平岡博多

法律・条例	遵守事項または規制基準	当社の適用及び対応	遵守評価
循環型社会形成推進基本法	廃棄物の3R及び適正処理の推進	廃棄物の分別、行政への協力	○
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物の処理	市条例の収集・処理基準の遵守	○
	産業廃棄物の保管	保管基準の遵守、保管場所の表示	○
	産業廃棄物の委託処理	処理業者と契約書締結、許可証確認	○
	マニフェスト管理	マニフェストの交付、保管(A,B2,D,E票)	○
		B2,D,E票の期間内返却の確認	○
	マニフェスト交付状況の市役所報告	6/30までに報告書提出	○
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	産業廃棄物管理責任者の選任	選任者 平岡博多	○
	委託先の実地確認と記録の保存	年1回現地確認を実施し、その記録を5年間保管する	○
家電リサイクル法	指定家電の廃棄時	リサイクル料金の支払(廃棄時)	○
自動車リサイクル法	自動車の廃車時	リサイクル料金の支払(廃車時)	○
リサイクル法	適正廃棄	パソコン、二次電池廃棄時	○
資源有効利用促進法	指定再資源化製品のリサイクルへの協力	メーカー回収への協力(パソコン、小型二次電池等の廃棄時)	○
環境基本法	自主努力義務、行政への協力	EA21の取組	○
地球温暖化対策推進法	自主努力義務、行政への協力	EA21の取組	○
省エネ法	省エネの自主努力	省エネ型モーターへの切替え	○
消 防 法	少量危険物の保管	消防署への届出	該当無し
	火災予防	消火設備の定期点検	○
フロン排出抑制法	16条 空調機器 第1種特定機器	3か月に一度の簡易自主点検	○
	41条 エアコン・冷凍(冷蔵)機器の廃棄時	フロン回収業者への引き渡し	該当無し
浄化槽法	10条 浄化槽の保守点検及び清掃の実施	1年に1回実施済み	○
	11条 指定検査機関による水質に関する検査の実施	実施済み	○
水質汚濁防止法	特定施設(自動式車両洗浄施設)の届出	洗車機の変更・廃止時の届出(市)	該当無し

2. 違反、訴訟等の有無

当社に対し関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありませんでした

9 代表者による全体評価と見直し・指示

令和6年7月から1年間の取組について、期間中の環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況等について評価を行なった。

今期は車検台数が大幅に増加した事、整備士の4名の採用が出来たことにより稼働が大幅に増えた為、二酸化炭素排出量が6.7%増加した。

車検増加に伴う代車の貸出によるガソリン使用量の増加、光熱費の増加はむしろありがたい状況で、車検の前年比が+7.4%であることを考えれば、二酸化炭素排出量の6.7%増は今期においては許容範囲と考える。

夏場の猛暑の為、電力を抑えることが難しいが、お客様が快適に店舗で過ごされ、社員が熱中症などにならないよう配慮しながら、工夫をしながら効率的に電力を使用出来たと考える。引き続き、エコアクション21への取組を継続・強化していき、その取組が、企業経営者のみならず個々の従業員にとってもお客様にとっても有意義なものとなることを期待する。

見直し項目		変更の 必要性	「有」の場合の指示事項等
1	環境経営方針	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	
2	環境経営目標	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	
3	環境経営計画	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	
4	環境に関する組織(実施体制含め)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	
5	その他のシステム要素	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	
6	その他(外部への対応)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	

令和7年7月24日
代表取締役 市川哲也